



ENGINEER® の MPDP ダイアリー

高崎 充弘

第42回 オーシャンズ11～MPDPドリーム チームの作り方～



[Profile]

東京大学工学部卒業後、三井造船入社。米国レンスラー工科大学で修士課程修了後、(株)エンジニアの前身である双葉工具に入社。2004年に同社代表取締役社長に就任。独自の「MPDP理論」によるニッポンのモノづくり立国を提唱している。

数年前、「ネジザウルス」を「VamPLIERS」という商品名で米国販売するため、西海岸へ出張した時のこと。代理店のTさんの運転する車の中で、「シリコンバレーなどの米国企業が短期間で世界市場を席巻することができるのはなぜか？」という話になり、『オーシャンズ11』が彼の答えでした。ちょうどその映画の舞台になった辺りを走っていたこともあり、強く印象に残っています。

『オーシャンズ11』は2001年に公開された米国映画。ジョージ・クルーニー演じるダニー・オーシャンと彼が率いる10人の仲間が、ラスベガスのカジノの金庫破りに挑む犯罪アクションです。ダニーの右腕ラスティ・ライアンをブラッド・ピットが演じるなど、ハリウッドを代表する豪華な俳優が多数出演したことで有名です。

ダニーが最初に行ったのは、電気配線のプロ、爆薬物の専門家、変装の名人、アクロバットの達人など、スペシャリストのスカウトです。そして史上最強の犯罪ドリームチームを作り上げていきます。

米国企業は筋の良いビジネスのアイデアがあれば、社内外を問わず、さらには国内外を問わず、『オーシャンズ11』のごとく世界中からその道のエキスパートを探し出してチームに加えます。ところが日本では「このプロジェクトは社長のお声がかかりなので、壁を取り払って部門横断型でいこうぞ!」。……もちろん部門は横断しないよりしたほうがいいのですが、それはつまり、社内の専門家を集めたということです。野球やサッカーなどのプロ・アマ戦でも、メンバー表を見ただけでどっちが勝つか100%予想できる場合があります。

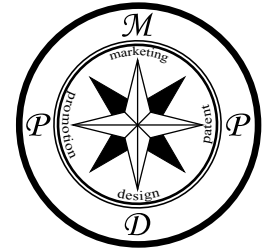
米国と日本では労働（雇用）の流動性が異なるので、直ちにまねはできないと思いますが、「まずドリームチームを作り、しかる後に戦う」という考え方が重要だと思います。

さて、中小企業ではどうでしょうか？ 大企業に比べて社内人材の層が薄く、専門家もほとんどいないので、そもそも部門横断型プロジェクトチームは成立しません。したがって外部のスペシャリストの活用が必要不可欠です。

つまり、中小企業こそ『オーシャンズ11』を地で行くべきなのです。では、金庫破りではなくビジネスの世界ではどのようなスペシャリストが必要なのか？ これは読者の皆さまはよくお分かりでしょう。敏腕マーケティング、有能な弁理士・弁護士、熟練デザイナー、辣腕プロモーターというMPDPの専門家がチームに加わることでプロジェクトの成功確率がグンと高まります。

ただし、その際に重要なポイントが2つあります。まず、少なくともPatentに関しては外部の専門家に任せ切るのではなく、彼らとコミュニケーションできる基礎知識を経営者や幹部社員が身につけておくことです。そのためには知的財産管理技能検定の活用が効果的であることは本稿でも何度かお話しさせていただいたとおりです。

次に、MPDPを一気通貫に推進できるプロデューサーが必要です。映画ではダニーとラスティの2人がその役割を果たしています。ビジネスにおいては、経営者、あるいは幹部が、新製品や新サービスを世界中に展開するという大きな目標を設定して優秀な外部専門家を含むMPDPドリームチームを結成し、強力なリーダーシップでチームを率いていくことが理想だと考えています。



ウ：今回のテーマは『オーシャンズ11』でっか！
MPDPとはどんなふうに関係してるんやろ？ ドキドキするなあ (*^^*)

銀：ワシも大好きな映画やねん！ 何回も観ましたで。

高：11人のドリームチームの中では誰が好きなんだい？

ウ：ボクはラスティ！ いつもジャンクフードを食べるところが、めっちゃキュートやねん！

高：私もダニーの右腕として大活躍するラスティがイチオシだね。やはり、ヒーローには相棒が必要なんだとあらためて思ったよ。銀次郎くんは？

銀：爆弾の専門家がいまっしゃろ。黒人で地味な役回りやけど、きっちり仕事をこなす！ いぶし銀のような職人ですわ (*^^*)

高：「人間火薬庫」といわれているバシャーだね。華やかさはないが、実力は折り紙付きで、仲間からも絶大な信頼を得ているキャラクターだったよね。

ウ：銀ちゃんも、サバゲでかなり日焼けして、いぶし銀になってきてまっせ～ (*^^*)

銀：顔が黒光りしてるってか！ 失礼なやっちゃ (-_-)

高：さて、わがエンジニアもMPDPドリームチームで戦っているんだが、銀次郎くんとウルスクンはMPDPのどのプロセスの担当だったかな？

ウ：ボクは営業チームなんで、MarketingとPromotionですわ。お客さまのニーズを収集し、できた製品をお客さまに提供しまんねん。

銀：野球でゆうたら先発ピッチャーとシメのクローザーや。オイシイとこ持ってとるな～ (*^^*)

高：ウルスクンは特にPromotionで頑張ってるね。まさに、抑えの守護神、いや守護龍神だ (*^^*)

銀：ワシら製造技術チームはPatentとDesignの担当やから、試合の中盤でマウンドに上がるリリーフとセッターアップパーかな。営業チームのような派手さはないけど、しっかり中継ぎしまっせ！

高：地味な存在かもしれないが、リリーフエースとして大活躍すれば、発明表彰や国内外のデザイン賞を獲得するチャンスはあるよね。

ウ：表彰式に参列できたり、自分の名前が書かれた賞状やトロフィーをもらたらテンション上がるやろな。銀ちゃんチームもオイシイとこあるやん！ (*^^*)

高：銀次郎くんやウルスクんが、それぞれMPDPのプロセスをしっかり担当してくれているのはよ～く分かったよ。さて、ここからが本題なんだが、当社がどのように『オーシャンズ11』を実践しているか考えてみよう。

銀：外部の専門家の活用っちゅうことやったら、Patentでは弁理士や弁護士、Designでは大学のプロダクトデザイナーにご指導をお願いしてまっせ。

ウ：Promotionとしてのボクのキャラは、漫画家にも参画してもらって誕生したって聞いてますわ (*^^*)

高：そうなんだ。ポイントは、社内のMPDPそれぞれの担当者が、対応する外部専門家とコラボしているということ。これがエンジニア版『オーシャンズ11』。

銀：確かに丸投げはしてまへんな。教えを請いながら一緒にやってますわ。

ウ：そやから、社員のスキルも上がりまんねんな。

高：米国版ではプロジェクトが完了すれば大金を分配して解散。次の「ヤマ」があれば『オーシャンズ12、13』と新たにメンバーを集めるという繰り返し。

銀：エンジニア版はコアとなる社員は継続し、その都度、外部専門家をチームに入れるっちゅうことでんな。

ウ：助っ人外国人選手を戦力化でき、その間にチームメートも多くのことを吸収できれば最高やね！

高：来年はサンドラ・ブロック主演の女性版『オーシャンズ11』も製作されるようだから、将来はMPDPドリームチームの半分くらいは女性になるかも！？

銀・ウ：メッチャええやん！ 楽しみでんな～ (*^^*)